

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和元年11月1日（金）10時00分～11時10分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

澁谷企画調査官、宇野課長補佐、知見主任安全審査官、高松係員、山中係員、
田上係員、長崎技術参与、高木技術参与

福島第一原子力規制事務所

木村原子力防災専門官、木村原子力運転検査官、田中原子力運転検査官

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

プロジェクト計画部 担当4名 福島第一原子力発電所 担当7名

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
 - 3号機窒素封入設備について、二重化した新設の原子炉圧力容器（RPV）封入ラインの通気試験を11月6日～7日に実施予定。既設RPV封入ラインから新設RPV封入ラインへ切替えの際に、既設RPV封入ラインでの窒素封入が停止するため、計画的に運転上の制限からの逸脱状態に移行した上で作業を実施予定。
 - 3号機燃料取扱設備について、燃料取り出し準備作業中に、①テンシルトラス旋回不良（9月3日）、②マスト旋回不良（9月9日）、③マスト水圧ホース継ぎ手部からのにじみ（10月15日）、④マニピュレータ左腕動作不良（10月15日）及び⑤マストホイスト乱巻きによるワイヤロープ潰れ（10月18日）が発生。①～③については部品交換等に対応済み。④については運用を変更することで安全確保が可能と判断し、ガレキ撤去作業を再開。⑤については交換するためのワイヤロープの調達時期を調整中であり、調達でき次第、燃料取り出し作業を再開予定。
 - 1号機原子炉格納容器（PCV）内部調査のアクセスルート構築作業におけるダスト濃度監視を充実させるため、PCVヘッド近傍に追加で作業監視用ダストモニタを新設予定。当該ダストモニタのダスト吸引用ホースを敷設する原子炉キャビティ差圧調整ラインの配管切断作業を10月25日に実施。配管内部に汚染を確認したため、汚染拡大防止対策（シート養生及び局所排風機の設置）を実施した上で作業を進める予定。
 - 1号機原子炉建屋ウェルプラグ調査について、上段プラグ～中段プラグ間に遠隔操作ロボットを投入してカメラ撮影、空間線量率測定、3D計測及びスミア採取を本年7月17日～8月26日に実施。3D計測により可能な範囲で寸法情報を取得した結果、プラグにたわみ等の変形があることを確認。また採取したスミアサンプルを分析した結果、 γ 線放出核種（Cs-134等）及び α 線放出核種を検出。今後、汚染密度分布を評価予定。
 - 10月31日に構内の車両スクリーニング場において、汚染検査待ちで停車中の車の中で協力企業作業員が喫煙していることをスクリーニング測定員が発見。当該作業員についてホールボディーカウンターによる測定を実施し、内部取り込みがないことを確認。今後、再発防止対策を講じる予定。
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、
 - 3号機燃料取扱設備で発生したマストワイヤロープの潰れについて、燃料のつ

り上げに直接関係することから、考えられる発生要因を整理し、要因分析を実施した上で今後の対応について説明すること

- 1号機PCV内部調査に係るダストモニタの新設作業について、適宜進捗を報告すること
- 構内の管理対象区域における喫煙を含め、放射線管理に係るトラブルが後を絶たないことから、当該トラブルの発生をどの程度想定していたか、また予防するためのマニュアルの整備状況等について、整理して説明すること等を求めた。

6. その他

資料：

- 1F-1オペフロダストモニタのBG計数率の測定記録
- 1～3号機窒素封入設備他取替工事のうち3号機原子炉圧力容器封入ライン通気試験の実施について
- 3号機燃料取扱設備の状況について
- 1号機PCV内部調査にかかるアクセスルート構築作業について
- 1号機原子炉建屋ガレキ撤去関連調査結果及び北側屋根鉄骨の切断開始について
- 循環注水冷却スケジュール
- 使用済燃料プール対策スケジュール
- 燃料デブリ取り出し準備スケジュール
- 汚染水対策スケジュール
- 水処理設備の運転状況，運転計画（2019年10月25日～2019年11月7日）
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について（2019年10月25日～2019年10月31日）
- 各エリア別タンク一覧
- 汚染水等構内溜まり水の状況（2019. 10. 24時点）
- タンク建設進捗状況
- 建屋内における残水等の状況について